

主要産地における令和3年産水稻の生育状況等について 第13報 (8月25日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和3年8月25日)

道府県	生育状況等		技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考) 令和3年度の品種構成等の情報
	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)	平年に対する遅速等		
北海道		<p>・本年の生育は8月15日現在で6日早く進んでおり、登熟期間の温度は総じて高い傾向に有り、成熟期はかなり早まる事が予想される。(北海道農政課 8月24日付)</p> <p>【生育状況 (8月15日現在)】                      (全道) 高温・多雨により、生育は平年より早く進んでいる。(北海道農政課 8月19日付)                      (空知) 生育は早く進んでいる。(空知総合振興局 8月19日付)                      (石狩) 高温により登熟は順調である。(石狩振興局 8月19日付)                      (後志) 遅速は早5日。(北海道農政課 8月19日付)                      (胆振) 生育は早い。(胆振総合振興局 8月19日付)                      (日高) 高温・多雨により登熟は順調に進んでいる。(日高総合振興局 8月19日付)                      (渡島) 生育は早く進んでいる。(渡島総合振興局 8月19日付)                      (増山) 生育は平年より早い。(増山振興局 8月19日付)                      (上川) 生育の遅速は、平年より早く推移している。(上川総合振興局 8月19日付)                      (留萌) 生育は早く進んでいる。(留萌振興局 8月19日付)                      (オホーツク) 8月上旬の高温により、生育は平年より早まった。(オホーツク総合振興局 8月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】                      北海道地方の向こう1か月の平均気温は日本海側で高い見込み。オホーツク側と太平洋側で平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並。日照時間は日本海側とオホーツク側で、ほぼ平年並。太平洋側で平年並が少ない見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】                      北海道地方の向こう3か月の平均気温、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「ななつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。</p> <p>(農林水産省 3月23日)                      (出典資料は以下同じ)</p>
青森		<p>【籾穀調査】                      (黒石)                      「つがるロマン」は、籾長が平年よりやや長く、籾幅が平年並で、籾長×籾幅は平年比103%とやや大きかった。「青天の霹靂」は、籾長、籾幅ともに平年並で、籾長×籾幅は平年比104%とやや大きかった。「まっしぐら」は、籾長がやや長く、籾幅が平年並で、籾長×籾幅は平年比105%とやや大きかった。</p> <p>(生育・作柄) (地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 8月7日付</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】                      東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並。日照時間は平年並が少ない見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】                      東北地方の向こう3か月の平均気温、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>・斑点米カメムシ、いもち病の発生が「多い」と予想される。(東北) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり令和3年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手		<p>【7月26日現在】                      (1) 北上 (農業研究センター)                      「ひとめぼれ」「あきたこまち」「銀河のしずく」の草丈、莖数、葉齢は平年を上回り、葉色は平年並～やや濃くなっている。また、生育ステージは平年より3～4日早まっている。</p> <p>(2) 軽米 (東北農業研究所)                      「いわてっこ」の草丈は平年を上回り、莖数は平年をやや下回り、葉齢は平年並、葉色は平年より淡くなっている。また、生育ステージは平年より4日早まっている。</p> <p>(岩手県農業研究センター生産基盤研究部 7月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】                      (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】                      (同上)</p> <p>・斑点米カメムシ、いもち病の発生が「多い」と予想される。(東北) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城		<p>(仙 台) 管内全体の収穫期は7月30日となり、平年より3日早くなった。(宮城県仙台農業改良普及センター 8月17日付)</p> <p>【8月10日現在】                      ・水稲作付見込面積の98.2%が出穂し、県全体の収穫期は8月7日で平年より3日早い。(宮城県 8月11日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】                      (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】                      (同上)</p> <p>・斑点米カメムシ、いもち病の発生が「多い」と予想される。(東北) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、近年、収量水準の高い「萌えみのり」が増加傾向にある。</p>
秋田		<p>(鹿 角) (8月20日調査) 穂数501本/m<sup>2</sup> (平年比104%)、1穂着粒数63.9粒/穂 (平年比94%)、m<sup>2</sup>当たり着粒数32.034粒/m<sup>2</sup> (平年比98%)。(8月20日付)</p> <p>(由 利) 穂揃いの調査では、穂数は486本/m<sup>2</sup> (平年比103%)と平年よりやや多く、一穂穂数は68.0粒で平年並み(同100%)、着粒数は32.860粒/m<sup>2</sup> (同103%)と平年よりやや多くなっている。(8月20日付)</p> <p>(秋 田) (8月18日調査) 「あきたこまち」の生育は穂数が420本/m<sup>2</sup> (平年比97%)、着粒数が30.894粒/m<sup>2</sup> (平年比95%)。(8月20日付)</p> <p>(山 本) 平年より生育が進んでおり、管内の出穂盛期は7月30日(平年-4日)。(8月20日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】                      (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】                      (同上)</p> <p>・斑点米カメムシ、いもち病の発生が「多い」と予想される。(東北) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形		<p>・県全体の収穫期は8月2日頃で、平年より4日早くなった。(山形県 8月25日付)</p> <p>(最 上) 出穂が早かった「ヒメモチ」は、9月に入ると刈取適期となる。(最上総合支庁農業技術普及課 8月24日付)</p> <p>(西・東南置賜) 出穂期は早く、出穂後の気温も高く経過したため、刈取時期は早まる見込み。8月21日以降も気温は高く経過する予報(気象庁1か月予報)のため、刈取時期がさらに早まる事が予想される。(西置賜農業技術普及課・置賜農業技術普及課 8月18日付)</p> <p>(酒田飽海) 出穂期は、生育診断では「はえぬき」が7月29日(平年-6日)、「つや姫」が8月7日(平年-3日)、「雪若丸」が8月1日(平年-3日)と、早まった。管内全体でも、同様の出穂期となっている。生育診断の穂揃いの生育は、穂数、一穂穂数、m<sup>2</sup>当たり穂数いずれも平年並～やや多く、穂数、着粒数とも平年並～やや多い状況と思われる。ただし、品種や圃場ごとのバラツキがある。(酒田農業技術普及課 8月18日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月14日～9月13日】                      (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】                      (同上)</p> <p>・斑点米カメムシ、いもち病の発生が「多い」と予想される。(東北) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島		<p>【8月3日現在】                      ・農業総合センターの生育調査における「ひとめぼれ」の出穂期は、本部(郡山市)が5日早く、会津地域(会津坂下町)と浜地域(福島市)が3日早まっている。</p> <p>(生育)                      ・「コシヒカリ」についても、「ひとめぼれ」や「天のつぶ」と同様に出穂が早まる見込み。(福島県 8月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】                      (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】                      (同上)</p> <p>・斑点米カメムシ、いもち病の発生が「多い」と予想される。(東北) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加傾向となっている。</p>
茨城		<p>【水 戸】 (8月2日現在) (茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 8月11日付)                      (4月30日移植) 出穂期は「あきたこまち」が平年より2日早い7月14日、「ふくまるSL」が平年並の7月17日、「コシヒカリ」が平年より2日早い7月24日だった。登熟積算気温による成熟期の予測日は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月18日、「ふくまるSL」で2日早い8月22日、「コシヒカリ」で3日早い8月31日である。                      (5月10日移植) 出穂期は平年より2日早い7月29日だった。登熟積算気温による成熟期の予測日は、平年より2日早い9月6日である。</p> <p>(生育)                      【龍ヶ崎】 (8月10日現在) (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月13日付)                      (4月27日移植) 出穂期は「あきたこまち」で平年より2日早い7月13日、「ふくまるSL」で1日早い7月16日、「コシヒカリ」で2日早い7月22日だった。                      今後気温が平年並に推移した場合、登熟積算気温による成熟期の予測は、「あきたこまち」で平年より1日早い8月19日、「ふくまるSL」で平年並の8月22日、「コシヒカリ」で3日早い8月28日である。                      (5月7日移植) 出穂期は平年より2日早い7月26日だった。今後気温が平年並に推移した場合、登熟積算気温による成熟期の予測は、平年より3日早い9月3日である。</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】                      関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量は、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】                      関東甲信地方の向こう3か月の平均気温、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>・いもち病の発生が「多い」と予想される。(北関東) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「あさひの夢」及び「ふくまる」が増加傾向となっている。</p>

	生育状況等		
栃 木	<p>【7月20日調査】 (早期栽培・品種コシヒカリ) 草丈は前年比101%の年並、これまでの経過ではやや多かった数は前年比100%と年並になった。 葉齢は前年並(0.0葉)、葉色は前年より0.3淡かった。生育診断値(葉色×葉数)は前年比91%と年並を下回った。 「コシヒカリ」(5月4日移植)の出穂期は、7月27日頃と推定される。</p> <p>(生育) (早期栽培・品種とちぎの星) 草丈は前年比99%と年並、葉数は前年より114%と多かった。葉齢は前年より0.4葉多く、葉色は前年より-0.8淡い。生育診断値(葉色×葉数)は前年比92%と年並を下回った。</p> <p>(普通栽培・品種とちぎの星) 葉数は前年比104%から121%と多く、葉色は前年並、生育診断値は前年比110%から116%とやや大きい。 (栃木県 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 (同上)</p> <p>・いもち病の発生が「多い」と予想される。(北関東) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「みずがかり」及び「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>
千 葉	<p>・4月20日植えの「コシヒカリ」「粒すけ」は7月16日(前年よりやや早い)から出穂期を迎えた。</p> <p>・成熟期は4月20日植えの「ふさおとめ」が8月11日から、「ふさこがね」は8月17日から、「コシヒカリ」「粒すけ」は8月23日からと予測される。</p> <p>(生育) (千葉県 7月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 (同上)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。</p>
新 潟	<p>【8月19日現在の県内全域の生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」の出穂期は、県平均で前年より1日早い8月3日。指標値に比べ出穂期の葉色は「並」、稈長は「並」。</li> <li>・「新之助」の出穂期は、県平均で前年より1日早い8月9日。指標値に比べ、出穂期の葉色は「並」、稈長は「並」。</li> <li>・地域差やばらばらさが大きくなっている。</li> <li>・8月10日以降の低温で登熟がやや停滞しているもの、今後は高温の予想であることから登熟が進み、収穫の適期が早まる可能性がある。</li> <li>・早生品種では、登熟初期がかなりの高温で経過していることから、胴割粒が発生しやすい状態になっている。 (新潟県 8月20日付)</li> </ul> <p>(生育) (三 条) 収穫適期のめやす(8月17日現在 8/17以降の気温は年並値を適用) ・「コシヒカリ」(5月5日植え) 9月8日 ・「コシヒカリ」(5月10日頃植え) 9月11日 ・「新之助」(5月5日植え) 9月21日 (三条農業普及指導センター 8月24日付)</p> <p>(柏 崎) 出穂後の積算気温から見た収穫予想(8月16日現在) ・「こしいぶき」 8月31日 ・「コシヒカリ」(5月10日植え) 9月11日 ・「コシヒカリ」(5月20日植え) 9月15日 (柏崎地域農業振興協議会 8月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は前年並が高く、降水量は、ほぼ前年並、日照時間は前年並が少ない見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温、降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北陸) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」、「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。</p>
富 山	<p>【本田での生育状況】(7月19日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」 年並に比べて、草丈はやや長く、葉数は並み、葉色は濃く、葉齢はやや遅れている。 今後、年並の気温で推移した場合、出穂期は前年より2日遅い8月4日頃と見込まれる。</li> <li>・「てんこもり」 年並に比べて、草丈、葉数、葉色は並み、葉齢はやや遅れている。 今後、年並の気温で推移した場合、出穂期は前年より3日遅い8月7日頃と見込まれる。</li> <li>・「てんたかく」 5月3日移植の「てんたかく」の出穂期は、7月17日となった。 今後、年並の気温で推移した場合、成熟期は8月22日頃と見込まれる。</li> <li>・「富富富」 近年に比べて、草丈、葉数、葉色は並み、葉齢は遅れている。 今後、気温が年並に推移すると、出穂期は前年より2日遅い8月6日頃と見込まれる。 (富山県 7月19日付)</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 (同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北陸) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているもの、近年高温登熟でも品質が安定している「てんこもり」及び「富富富」が増加傾向にある。</p>
石 川	<p>【7月28日調査】【出穂期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」 加賀地域では7月25日～8月2日と、年並に比べ3日早い～並で前年並、能登地域では7月29日～8月3日と、年並に比べ2日早い～並、前年に比べ並～3日遅い見込み。</li> <li>・「ひやくまん穀」 加賀地域で8月4日～10日と近年及び前年並、能登地域では8月8日～10日と、近年及び前年並～2日遅い見込み。 (石川県農林総合研究センター 7月29日付)</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 (同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北陸) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ゆめつぼ」を中心とする品種構成であるが、近年県オリジナル品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。</p>
福 井	<p>【8月19日水稲登熟状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハナエチゼンは乾燥が進み、胴割粒が多くなっている。</li> <li>【農業試験場の積算気温に基づく収穫期予測】</li> <li>・コシヒカリ(5月20日植) 出穂期 8月2日 積算気温990℃に到達する日 9月8日</li> <li>*気象庁の観測値および年並値で算出 今後の気象で変動することがある (福井県ほか 8月20日付)</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 (同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北陸) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。</p>
長 野	<p>【標高340m須原市八重森の農業試験場における水稲生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂期は、「あきたこまち」「風さやか」で前年並、「コシヒカリ」で1日遅かった。</li> </ul> <p>【標高1017m原村の原村試験地における水稲生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂期は、前年より「きらりん」で3日、「ゆめしなの」「あきたこまち」で2日遅かった。 (長野県農業試験場 8月10日付)</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量は、ほぼ前年並、日照時間は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温、降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>・斑点米カメムシ、いもち病の発生が「多い」と予想される。 (甲信) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種として「風さやか」の導入を推進している。</p>
滋 賀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作況調査の「みずかがみ」「コシヒカリ」の登熟は、7月下旬～8月上旬は順調に進んだが、8月中旬からは低温日照の日が続き、やや遅れている。「みずかがみ」の成熟期は、前年よりやや遅れる見込み。</li> <li>・県内ほ場の5月上旬移植「みずかがみ」では、8月25日頃に成熟期を迎える見込み。 (滋賀県農業技術振興センター 8月23日付)</li> </ul> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ前年並、降水量は、ほぼ前年並、日照時間は日本海側で前年並から少なく、太平洋側で、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温、降水量は、ほぼ前年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (近畿) (農林水産省 8月4日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温登熟性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>

	生育状況等		
兵庫	<p>【7月30日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県南部の極早生品種の「キヌヒカリ」、「どんとこい」では、草丈が平年並～やや短く、莖数はやや多い。一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平年に比べてやや短い～平年並、莖数は「ヒノヒカリ」で多く、「きぬむすめ」でかなり多い。</li> </ul> <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県北部では、草丈、莖数ともに平年並。出穂は「コシヒカリ」で平年よりやや早くなる見込みである。(兵庫県 8月6日付)</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(近畿) (農林水産省 8月4日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。</li> </ul>
岡山	<ul style="list-style-type: none"> <li>早生品種は、出穂が平年よりやや早く始まり、莖数は概ね平年並となっている。</li> <li>中生・晩生品種は、分けつ盛期～幼穂形成期で、莖数は概ね平年並となっている。</li> <li>このまま高温傾向が続くと、早生品種の成熟が早まると予想される。</li> </ul> <p>(生育) (岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術担当者会議 8月2日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】中国地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並、降水量は、ほぼ平年並。日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】中国地方の向こう3か月の平均気温、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(中国) (農林水産省 8月4日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</li> </ul>
広島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(中国) (農林水産省 8月4日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</li> </ul>
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年の早期水稲の出穂時期は、平年よりやや遅かった。</li> <li>向こう1か月の平均気温はほぼ平年並であり、成熟期については平年並～やや遅いと予想される(平年の成熟期:4月20日移植「あきたこまち」では8月6日ごろ、「コシヒカリ」では8月12日ごろ)。</li> </ul> <p>(生育) (愛媛県 8月3日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】四国地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】四国地方の向こう3か月の平均気温、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(四国) (農林水産省 8月4日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</li> </ul>
高知	<p>(早期稲: 熟期期～収穫期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「南国そだち」の収穫は平年に比べやや遅れているものの、県下全域で生育は概ね順調である。</li> <li>「よさ恋美人」「コシヒカリ」の収穫開始時期は、ほぼ平年並の見込みである。</li> </ul> <p>(生育・作柄)</p> <p>(普通期稲: 分けつ終期～幼穂形成期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域によって生育にばらつきが見られ、中央部の山間部では初期の生育不良や苗いもちの影響による植え直しなどが原因で生育はやや遅れているが、その他の地域は概ね順調に生育している。</li> </ul> <p>(高知県病害虫防除所 8月6日付)</p> <p>【西南暖地における早期栽培等の作柄概況】(作柄の良否(平年比較)) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高知県(早期栽培)は、やや不良。(農林水産省 7月30日付)</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(四国) (農林水産省 8月4日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</li> </ul>
福岡	<p>【早期水稲(夢つくし、コシヒカリ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月中下旬種「コシヒカリ」「夢つくし」の収穫期は、平年よりやや早く、8月12～22日頃の見込み。</li> <li>穂数は平年より少ないが、出穂後の高温多湿により、作柄は平年並と予想される。</li> </ul> <p>【普通期水稲(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>移植後の高温により、草丈は高く、莖数は平年並。</li> <li>生育は、平年に比べ5～7日程度早い。</li> <li>一部地域においては、雨水不足により莖数が少ない圃場が見られる。</li> <li>6月上中旬種「夢つくし」の出穂期は、平年よりやや早い8月5～10日頃の見込み。</li> </ul> <p>(福岡県農林業総合試験場 8月2日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】九州北部地方の向こう1か月の平均気温、降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】九州北部地方の3か月の気温、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が増加傾向、「元気つくし」が減少傾向となっている。なお、県では今後新品種「実りつくし」の拡大を推奨している。</li> </ul>
熊本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】(同上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に、大きな変化はない。</li> </ul>
宮崎	<p>【西南暖地における早期栽培等の作柄概況】(作柄の良否(平年比較)) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎県(早期栽培)は、やや不良。(農林水産省 7月30日付)</li> </ul> <p>【作物の生育状況(7月中旬)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>普通期水稲は分けつ期。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月28日)</li> </ul> <p>(生育・作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】九州南部地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】九州南部地方の向こう3か月の気温、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「み系358」への作付誘導が進められている。</li> </ul>
鹿児島	<p>【西南暖地における早期栽培等の作柄概況】(作柄の良否(平年比較)) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島県(早期栽培)は、やや不良。(農林水産省 7月30日付)</li> </ul> <p>(生育・作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月21日～9月20日】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】(同上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、早期栽培において収量水準の高い「なつぽのか」が増加傾向であり、「コシヒカリ」との価格差も小さいことから今後も移行が進むことが予想される。</li> </ul>

注1: 国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。内容の詳細については末尾の引用資料を参照してください。  
注2: 令和3年8月25日 14時時点での取り纏め。  
注3: 更新箇所は赤字で表している。

引用資料:

9月の営農技術対策(北海道 8月24日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道 8月19日)、  
農作物生育状況 8月15日現在(北海道空知総合振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道石狩振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道後志総合振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道胆振総合振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道日高振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道渡島総合振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道檜山振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道上川総合振興局 8月19日)、  
農作物生育状況調査の概要 令和3年8月15日現在(北海道留萌振興局 8月19日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月19日)、  
作況調査報告(稲穀調査)((地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 8月7日)、  
令和3年度水稲生育定期調査結果No.6(7月26日現在)(岩手県農業研究センター 7月27日)、  
令和3年度水稲の出穂状況について(8月10日現在)(宮城県 8月11日)、  
仙台稲作情報2021(第8号)(宮城県仙台農業改良普及センター 8月17日)、  
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 8月25日閲覧)、  
当面の技術対策(9月)(山形県 8月25日)、  
稲作だより第11号(最上総合支庁農業技術普及課 8月24日)、  
西おきたま米づくり情報No.11(西置賜農業技術普及課 8月18日)、  
東南おきたま米づくり情報No.11(置賜農業技術普及課 8月18日)、  
酒田・飽海米づくり情報第9号(酒田農業技術普及課 8月18日)、  
主要な農作物の生育情報令和3年度第5号(福島県農林水産部 8月5日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 8月11日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 8月13日)、  
令和3(2021)年度水稲生育診断予測事業速報No.5(栃木県 7月26日)、  
水稲の生育と当面の対策第6報(千葉県 7月28日)、  
水稲の生育状況と今後の管理対策(第9号)(新潟県 8月20日)、  
FAX稲作情報No.11(三条農業普及指導センター 8月18日)、  
柏崎・刈羽地域稲作だより(柏崎地域農業振興協議会 8月20日)、  
TACS情報第9号(富山県 7月19日)、  
令和3年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)(石川県農林総合研究センター 7月29日)、  
稲作情報No.16(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月20日)、  
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場八重森圃場 8月10日)、  
水稲高標高試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場原村試験地 8月10日)、  
令和3年度水稲生育診断情報No.5(滋賀県農業技術振興センター 8月20日)、  
令和3年度兵庫県農業気象技術情報No.4(8月情報)(兵庫県 8月6日)、  
水稲の高温による品質低下防止対策について(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術担当者会議 8月2日)、  
今月の天候と農作業 令和3年8月(愛媛県 8月3日)、  
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 8月6日)、  
福岡県の主な農産物の生産情報(福岡県 8月2日)、  
令和3年度病害虫発生予報第4号(富崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月28日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(8月19日札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(8月19日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(8月19日気象庁)、  
北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(8月19日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(8月19日大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(8月19日広島地方気象台)、  
四国地方方向こう1か月の天候の見通し(8月19日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(8月19日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(8月19日鹿児島地方気象台)、

北海道地方方向こう3か月の天候の見通し(8月25日札幌管区気象台)、東北地方方向こう3か月の天候の見通し(8月25日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう3か月の天候の見通し(8月25日気象庁)、  
北陸地方方向こう3か月の天候の見通し(8月25日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう3か月の天候の見通し(8月25日大阪管区気象台)、中国地方方向こう3か月の天候の見通し(8月25日広島地方気象台)、  
四国地方方向こう3か月の天候の見通し(8月25日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう3か月の天候の見通し(8月25日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方方向こう3か月の天候の見通し(8月25日鹿児島地方気象台)、

令和3年度水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月30日)、

令和3年度病害虫発生予報第6号(農林水産省 8月4日)、  
令和3年度水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月23日)